

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター学科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	コミュニケーション論	講義・演習	古川泰司、倉島和弥、来馬輝順、杉浦充	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	自分の考えを人に伝えるための技術、異なる他者を理解・意思疎通するコミュニケーション力を身に付ける。月曜日の2限目11時から12時半まで。10時50分までに来校ください
----------------------	---

授業の内容	様々なテーマについてグループディスカッションを行い、自分の考えを他人に伝えることを学び、意見をまとめる演習を繰り返し行う。引き続き、シェアハウス、コレクティブハウスの設計手法としてのコミュニケーションについて考える。また、生成AIの技術を活かしたコミュニケーションの方法を学ぶために、chat-gptの基本的な使い方を学びながらコンセプトや画像生成の作成に挑戦する。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	4/14 自己紹介をしてみよう 宿題 好きな建築をひとつ選んでその何が好きなのかを考えてくる 専任講師4人
2	4/21 自己紹介文を書いてみよう-1 専任講師3人
3	4/28 自己紹介文を書いてみよう-2 専任講師3人
4	5/12 グループで選んだ好きな建築についてそのいい点と悪い点を話し合っ発表する-1 来馬 倉島
5	5/19 グループで選んだ好きな建築についてそのいい点と悪い点を話し合っ発表する-2 古川 倉島
6	5/26 いっしょに暮らす場を考える-1(外部講師 山田)X古川
7	6/2 いっしょに暮らす場を考える-2(外部講師 山田)X古川
8	6/9 建築の問題を選びグループで解決策を話し合う-1 発表 来馬 倉島
9	6/16 建築の問題を選びグループで解決策を話し合う-2 発表 来馬 倉島
10	6/23 AI活用術-1 chat-gptの使い方を学ぶ 生成AIの基本と建築コミュニケーション(外部講師 植松)X古川
11	6/30 AI活用術-2 chat-gptによるコンセプトの作成-1 AIを活用した「未来の家」のコンセプトと画像生成設計(外部講師 植松)
12	7/7 AI活用術-3 chat-gptによるコンセプトの作成-2「他者になりきる」クライアントニーズの深掘り (外部講師 植松)
13	7/14 AI活用術-4 chat-gptによる実践的なクライアントワーク(提案とブラッシュアップ (外部講師 植松)
14	9/8 建築の仕事におけるコミュニケーションとは何かを議論し考える 専任講師3人
15	9/22 まとめ 専任講師3人

成績評価の方法
出席時数2/3以上、レポート提出による

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminarInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	ビジネスマナー	講義・演習	神戸 昌子/ゲスト講師	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	就職活動に向けて、仕事理解、自己理解を深め、自ら目指す仕事選択をして就職活動に臨む心構えとテクニックを取得
----------------------	---

授業の内容	業界の領域、職場、職種や仕事内容、キャリアの道筋などを、企業の方もお招きし知識を得ながら理解を深める。 仕事選択の明確化と自己PRの精度を上げる為、自己理解を深めるワークショップを行う。 志望動機、自己PRなどを言葉にできるよう、アウトプットすることを繰り返し行う。 インターンシップ、就職活動に向けてのスケジュール、心構えを都度確認し、履歴書・エントリーシートの書き方、模擬面接などを実践で学ぶ。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ガイダンス、授業内容の説明、仕事をするとは、就職に向けての知識と心構え、情報収集・準備の仕方
2	業界の研究① 業界の構造、職種を知る/業界就職戦線、スケジュール感、採用状況、選考方法傾向など
3	業界の研究② 業界の仕事内容、役割、必要なスキルなどを調べる/会社探しの方法、会社研究の方法を学ぶ
4	自己理解① ワークショップ(強み・弱み・価値観の確認)
5	自己理解② ワークショップ(強み・弱み・価値観のアウトプットする)
6	自己理解③ ワークショップ(人生振り返り、エピソードを掘り起こす)
7	会社理解① 会社研究の必要性を知り、会社研究の仕方、ポイントを学ぶ
8	履歴書、エントリーシート、面接とは /企業の方から、何をみているか、選考に大事なことを聞く
9	履歴書、エントリーシートの書き方① 書き方のポイント、自己理解・会社理解授業を振り返りまとめる
10	履歴書、エントリーシートの書き方② 実際書いてみる
11	自己表現 一般常識、身だしなみ、マナー
12	面接演習① 基本のレクチャー
13	面接演習② ロープレ
14	面接演習③ ロープレ
15	面接演習④ グループ面接、グループディスカッション / 授業のまとめ

成績評価の方法
授業内での作成物での習得度チェック
出席時数2/3以上、授業態度、提出物の確認

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
百貨店にて企画、開発、営業責任者などを経て、現在、本専門学校の就職支援室長 国家資格キャリアコンサルタント

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
筆記用具	A4資料収納クリアファイル 就職要点手帳 就活必携・労働法冊子 その他、資料
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	ビジネス実務 & SNS概論	講義・演習	佐藤 崇	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	ビジネスをする上で必要となるPC操作の基礎とSNSでの情報発信の手法・技術の取得			
授業の内容	ビジネス上のコミュニケーションで必要となるExcelとプレゼンテーション資料に必要なPowerPoitを使ったスライド作成などの基礎を学ぶ。 また、SNSを活用した情報発信の重要性や活用の仕方などを理解し、カメラワーク学びながら効果的なSNSの活用基礎を習得する。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	ガイダンス、授業内容の解説、業界・仕事におけるコミュニケーションツールの理解、SNSの理解			
2	Excel基礎、PowerPoint基礎、PowerPointスライド作成			
3	PowerPointプレゼン資料の作成			
4	バランスのよく見える写真の構図について			
5	構図を踏まえて撮影(明治神宮)			
6	撮影してきた写真をまとめ			
7	カメラワーク(SNSで効果的な物撮り、商品撮影)			
8	カメラワーク(SNSで効果的な物撮り、アイテム撮影)			
9	↓			
10	カメラワーク(被写体を建造物を中心に撮影)			
11	↓			
12	イメージビジュアル展示作品製作(学園祭展示用)			
13	↓			
14	↓			
15	作品発表、まとめ			
成績評価の方法				
授業内容の習得度の確認。				
出席状況、授業態度、カメラワーク作品評価				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
杉本ちゆきデザイン事務所デザイナーアシスタント経験後、OEM企画会社に入社。新規ブランド立上げの際にブランドロゴ制作を担当。その後Dicekisプレスルームにてプレス、Eコマース、撮影、イベントブース設営・物販などを務める				
授業初日持ち物 筆記用具、スマートフォン		学校で準備する教材など モニター		
配付資料				

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	2025	1年次	1年前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	製図-1	実技指導	古川泰司・倉島和弥	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	線の使い分け、記号の理解、道具の使い方、建築図面の基本的な意味と表現を理解する 鉛筆を使った作図製図を習得する
----------------------	--

授業の内容	鉛筆を使い手書きの製図を行います。建築士二級試験を視野に入れた訓練を通して、製図の基本を学びます。線の引き方や線の持つ意味、記号やルールから始め、平面図などの図面を描けるようにします。描けるようになるだけではなく、建築の成り立ちや空間を理解するうえでも大切な授業とまります。図面は言語の違う人に意思を伝えることができる大切なツールでもあります。初めてトライする人でもついていけるよう指導します。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	・製図の意味・役割・道具の説明と使い方・線の種類・線の太さ・線の書き方・文字の練習・図面記号：開口部 柱 大壁、真壁
2	・図法を理解する：・一角法・三角法
3	・配置図・平面図：平屋木造住宅 1/100：レイアウトを考える・敷地を描く・中心線を描く・補助線で壁柱を描く
4	・配置図・平面図：平屋木造住宅 1/100：レイアウトを考える・敷地を描く・中心線を描く・補助線で壁柱を描く
5	・配置図・平面図：平屋木造住宅 1/100：開口部を書き込む・壁をつなげる・寸法を入れる
6	・配置図・平面図：平屋木造住宅 1/100：開口部を書き込む・壁をつなげる・寸法を入れる
7	・立面図：平屋木造住宅 1/100 4面
8	・立面図：平屋木造住宅 1/100 4面
9	・立面図：平屋木造住宅 1/100 4面
10	・断面図：平屋木造住宅 1/100 2面
11	・断面図：平屋木造住宅 1/100 2面
12	・矩計図：平屋木造住宅 1/20
13	・矩計図：平屋木造住宅 1/20
14	・矩計図：平屋木造住宅 1/20
15	・まとめ・予備日

成績評価の方法
製図課題による：線の表現、図面のルール、各図面の基本的な理解を4段階で評価し60%以上・出席率60%以上・授業態度4段階をもとに評価する

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
住宅その他建築物、インテリアデザイン等企画実施設計監理・東京デザイン専門学校、昭和女子大学非常勤講師

授業初日持ち物 製図用具一式 A2ケント紙	学校で準備する教材などA2用平行定規(二級建築士試験対応)
配付資料 パワポ表示・コピー配布	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	製図-2	実験・実習・実技	来馬輝順・倉島和弥	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	・前期では、シンプルな図面を通して、製図のルールや線の意味、図面の成り立ちを習得した ・後期では、スケールを大きくして、おさまりも意識ながら二階建ての図面を描く ・二階建ての空間や構造、上下の動線である階段を理解し、矩計など構造も理解する ・Aコース、Bコースひとつを選択し、平面図、立面図、断面図、(矩計)、展開図(1～2部屋)
----------------------	--

授業の内容	Aコース 自分のパートナーと生活する二階建ての住宅をデザインする プラン作り、陸面や断面、空間を図面かしていく	Bコース 前期で使ったテキストにそって、二階建て図面一式をトレース製図する
-------	---	--

回	授業計画 及び 学習の内容	
	A	B
1	・自分のパートナーを想像し、生活を共にするプランを作成する	・配置図、一階平面図
2	・プランづくり	・配置図、一階平面図
3	・プラン完成	・二階平面図
4	・配置図、一階平面図	・二階平面図
5	・配置図、一階平面図	・立面図・2面
6	・二階平面図	・断面図
7	・二階平面図	・伏図解説・スケッチ作成
8	・立面図・2面	・矩計図
9	・断面図	・矩計図
10	・伏図解説・スケッチ作成	・矩計図
11	・矩計図	・展開図
12	・矩計図	・展開図
13	・矩計図	・平面図に電気、給排水位置を落とし込む
14	・展開図・2部屋程度	・平面図に電気、給排水位置を落とし込む
15	・講評	

成績評価の方法
出席時数2/3以上
製図課題による:各図面の基本的な理解を4段階で評価し60%以上を合格とする

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰

授業初日持ち物 製図用具一式・トレーシングペーパー A2ケント紙	学校で準備する教材など・ A2用平行定規(二級建築士試験対応)
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	建築計画-1(住宅編)	座学	倉島和弥	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	住宅を計画する上で必要なことを基本的知識を習得する。製図2課題に活かせるようにする
----------------------	---

授業の内容	建築計画は建物を設計するうえで、その用途に最低必要な考え方、スペースと繋がり、性能や機能、構造や設備、環境エネルギー、素材材料について学びます。 計画Ⅰでは、特に戸建て住宅を中心に学びます。設計は住宅に始まり住宅に終わるといわれ、建築のあらゆる要素を含んでいるからです。 生活のしやすさ、メンテナンスのしやすさ、快適さ、安心感といった感覚的なことも重要です。それらを図面や写真から読み解き理解を深めます。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容	
1	・建物の構成・分類・単位	建物の種類: 1～5種／戸建住宅・集合住宅／建主・建築主・使用者／寸法・モジュール、モデュロール・単位動作空間と単位空間 ■ 課題: 自分の体を測ってみよう
23	・考えるべきこと	基本的な構造計画・基本的な省エネルギー／平面計画・立面計画・断面計画／ゾーニング・グルーピング 三原則: 公私分離・食寝分離・就寝分離 ■ 課題: 自分の家を描いてみよう・ゾーニング、動線を考察しよう
4	・配置計画	道路との関係／隣家との関係／外部に必要なスペース ■ 課題: 各自の家を分析しよう
5	・平面計画: 玄関・玄関ホール・廊下	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
6	・平面計画: リビング・ダイニング・キッチン	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
7	・平面計画: 和室・個室	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
7	・平面計画: ユーティリティ・洗面脱衣・浴室・トイレ	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
8	・平面計画: 納戸・階段室	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
9	・平面計画: ベランダ・デッキ・その他	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
10	・断面計画: 天井高さ・吹抜	位置付け／仕上げ／設備／その他 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
11	・建築各分位の計画	基礎、外壁、屋根、開口部: レクチャー ■ 課題: 各自の家を分析しよう
12	・環境計画: 採光・換気通気	採光／換気 ■ 課題: 各自の家を分析しよう
13	・暮らしやすさ・便利さ	ディスカッション ■ 課題: 各自の家を分析しよう
14	・色々な住宅	スライドショー ディスカッション ■ 課題: 感想レポート
15	・まとめ・質疑・予備日	

成績評価の方法
授業態度4段階、出席率60%以上、各課題評価4段階を総合評価して合格を確定する

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
住宅その他建築物、インテリアデザイン等企画実施設計監理・東京デザイン専門学校、昭和女子大学非常勤講師

授業初日持ち物 色鉛筆、グリッドペーパー	学校で準備する教材などコピー用紙など
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	建築概論	講義・演習	古川、倉島、来馬、杉浦	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築の世界を様々な観点から理解する。月曜日9時20分から90分 9時10分までに来校ください
----------------------	--

授業の内容	建築デザインとは何かを、様々なテーマ・視点、および、屋根、壁、窓などの建築の部位について、から概観するために、専任講師による講義とともにグループディスカッションなどの演習を組み込みながら学んでいく。 また、経験豊富な第一線で活躍している建築家から実践的な建築の世界についての講義も交えながら建築とは何かを考えていきます。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	4/14 建築デザインとはなにか-1 倉島、来馬、杉浦、古川 専任講師の仕事を紹介 各自20分程度
2	4/21 建築デザインとはなにか-2 来馬:建築士ってなに? 建築業界について
3	4/28 建築デザインとはなにか-3 古川:好きな建築
4	5/12 建築デザインとはなにか-4 倉島:古代・ロマネスク・ルネッサンス・山岳都市街歩き
5	5/19 建築デザインとはなにか-5 古川:様々な椅子
6	5/26 建築デザインとはなにか-6 倉島:屋根のデザイン
7	6/2 建築デザインとはなにか-7 杉浦:都市部の設計デザイン
8	6/9 建築デザインとはなにか-8 来馬:パターンランゲージについて
9	6/16 建築デザインとはなにか-9 杉浦:失敗から学ぶ
10	6/23 前半のまとめ グループディスカッション 専任講師4名によるファシリテーション
11	6/30 建築とアート (外部講師 若原 X古川)
12	7/7 設計事務所と図面 (外部講師 関本 X古川)
13	7/14 工務店と設計事務所 (外部講師 飯塚 X古川)
14	9/8 最新の動向
15	9/22 まとめ レポートを書いてもらう

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポート提出、内容理解度による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<来馬> Basic Seminars In Contemporary Artに参加し自力建設等の建築活動を行う。界工作舎を経て現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	改修計画論-1	講義・演習	古川泰司	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	既存住宅利用についての基礎的な知見を学ぶとともに耐震改修計画の基礎を身につける。
----------------------	--

授業の内容	既存住宅利用についての基本的な知識を学ぶ。公認住宅医を外部講師として招き既存住宅の診断の基本を学ぶ。既存建物の耐震診断と補強計画について演習を交えながら実践的な力をつける。また、近年のトレンドである空き家活用について特別講師を招きその対策と対応について学ぶ。後期月曜日1限もしくは火曜日1限
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	10/7・既存住宅利用 空き家活用の社会的な意味
2	10/14・既存住宅診断の基本-1 調査の基本-1 (外部講師 住宅医 滝口)
3	10/21・既存住宅診断の基本-2 調査の基本-2 (外部講師 住宅医 滝川)
4	10/28・既存住宅診断の基本-3 調査の実例 (外部講師 住宅医 滝口)
5	11/4・改修工事の実例-1 空き家活用 小住宅
6	11/11・改修工事の実例-2 京都の町家
7	11/18・改修工事による性能向上 耐震性 断熱性 概論
8	11/25・耐震診断の基礎-1 耐震診断の基礎的な理解 簡単な耐震診断をやってみる
9	12/2・耐震診断の基礎-2 一般診断法と耐震要素
10	12/9・耐震診断の基礎-3 一般診断法と精密診断法
11	1/13・耐震改修の実務-1 課題演習
12	1/20・耐震改修の実務-2 課題演習
13	1/27・空き家活用-1 (外部講師 渡邊)
14	2/3・空き家活用-2 (外部講師 渡邊)
15	2/17・まとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポート提出、内容による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	建築設備-1	講義・演習	佐々木邦治	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	建築設備は、建築全体の設計と連携して快適な環境の実現や、社会的な環境負荷低減をなす。それらのを理解し、兼特設計を進めるための基礎知識を習得する			
授業の内容	建築における、設備を単なる付帯設備ととらえるのではなく、意匠設計を目指すものも設備設計と一体となつて、クライアントのニーズを達成することができるための基礎的知識を学べるように以下の項目を主体に授業を行う ・各建築設備の概要の理解 ・建築設備と建築設計との関連性 ・基礎的な個別知識 ・課題を通じた理解の深化			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	自己紹介 建築における建築設備とは			
2	空調設備の概要1 熱源の仕組みと原理			
3	空調設備の概要2 負荷側設備と原理			
4	給排水衛生設備の概要 給排水インフラの知識			
5	電気設備の概要 電力インフラの概要			
6	カーボンニュートラルと建築設備 建築と一体となった省エネ設計			
7	外装設計と環境性能			
8	建築設備が建築設計に与える、スペースと意匠上の特徴			
9	空調設計の基礎(負荷計算の仕方)			
10	空調設計の基礎(機器選定の例)			
11	設計課題1(主として計算課題)自己採点			
12	設計課題2(建築外装と空調・照明・換気)			
13	設計課題2の発表・講評			
14	建築士試験問題対策1			
15	建築士試験問題対策2			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上				
建築設備の概要が理解できているか、講義の理解度を確認する				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
株式会社三菱地所設計機械設備設計部長として設備設計の実務を経験				
丸の内熱供給株式会社 代表取締役専務執行役員として熱エネルギー供給会社の技術系責任者を経験				
授業初日持ち物		学校で準備する教材など		
配付資料				

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	開講年度	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	建築設備-2	講義	高橋 翔	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	照明計画の基礎知識及び実践的な計画手段、手法を課題製作を通して習得する。
----------------------	--------------------------------------

授業の内容	・最小限の共通設計条件の他は、生徒の個性を重視し、自身で決めたテーマのもとインテリア計画と照明計画を合わせて行う。 ・照明メーカーのショールーム見学。 ・授業は1対1の面談を重視し、取組状況を把握し各生徒の個性に合ったヒアリング・指導を繰り返して行う。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	自己紹介及び設計事例の紹介
2	照明設備の基本-1 概論
3	照明設備の基本-2 照度計算
4	照明設備の基本-3 証明レイアウト
5	照明設備の基本-4 建築化された照明の考え方(間接照明)
6	照明計画課題<住宅>①
7	照明計画課題<住宅>②
8	照明メーカー ショールーム見学
9	照明計画課題<小規模店舗>①
10	照明計画課題<小規模店舗>②
11	照明計画課題<大規模店舗>①
12	照明計画課題<大規模店舗>②
13	照明計画課題<公共空間>①
14	照明計画課題<公共空間>②
15	照明計画課題<公共空間>③

成績評価の方法
テーマの独自性及び表現能力の有無
座学・ショールーム見学を通じて得た専門知識を活かしているか

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
有限会社EOSplus 代表取締役
青山製図専門学校 非常勤講師(インテリア学科:照明デザイン、環境デザイン授業担当)

授業初日持ち物 課題作成用PC	学校で準備する教材など 特になし
--------------------	---------------------

配付資料 照明基礎知識座学にて資料配布

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	基礎力学	講義	馬場 貴志	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	建築物に作用する力の種類と建築物内を流れる力の伝わり方を理解する。 単純梁、片持ち梁の応力算定ができるようになる。			
授業の内容	身の回りにある物や道具を使い、どういった力の種類があるか、どんな風に力がかかるかを体感、想像する。 構造模型の作成を行い、手で押す等の加力実験を通して力の流れや構造の強さを体感、想像する。 実際の建築物の力の流れを意識しながら実験と講義と演習問題を中心に授業を行う。 演習問題の理解度を確認しながら授業を進める。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	ガイダンス、自己紹介、圧縮力と引張力を体感する			
2	三角形と四角形の模型を作り特徴を把握する			
3	はりの断面が縦長と横長でどちらが強いかわかる			
4	支点にかかる力を知る			
5	2x2スパンの構造模型を作る①			
6	2x2スパンの構造模型を作る②			
7	構造模型に耐震要素を加えて押してみる			
8	建築物の架構形式			
9	曲げモーメントとせん断力			
10	2つの接合方式			
11	3つの支点			
12	力の表現方法			
13	力の合成と分解			
14	集中荷重と分布荷重			
15	建築物の荷重について			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上、授業態度、演習問題の理解度等を総合して評価する。				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
構造設計事務所での勤務経験の後、個人で構造設計事務所を主宰				
授業初日持ち物		学校で準備する教材など		
筆記用具、ノート、関数電卓		演習問題のコピー、カッターマット(模型作成用)		
配付資料				
演習問題のペーパー				

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	構造力学-1	講義	磯野 由佳	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築物に作用する力の種類と建築物内を流れる力の伝わり方を理解する。 静定ラーメン構造およびトラス構造の応力、反力の算定ができるようになる。
----------------------	--

授業の内容	実際の建築物の力の流れを意識しながら講義と演習問題を中心に授業を行う。 演習問題は各授業ごとに行ない、理解度を確認しながら講義を進める。 単純梁の構造模型を作成し、断面の性質と加力試験結果を比較することで学習内容の理解を深める。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ガイダンス、基礎力学の授業内容の復習
2	静定ラーメン構造の解法の基本的な考え方
3	片持ちラーメンの応力、反力の算定
4	単純支持ラーメンの応力、反力の算定
5	3ピン構造の応力、反力の算定
6	トラス構造の性質と実例
7	トラスの解法① 節点法
8	トラスの解法② Ritterの切断法
9	応力度とひずみ
10	断面の性質① 断面1次モーメント、断面2次モーメント
11	断面の性質② 断面の主軸と断面係数、単純梁の構造模型の作成
12	単純梁の構造模型を用いた簡易な加力試験、作成した構造模型の断面の性質
13	梁内の応力度の算定
14	静定構造物の変形
15	部材の座屈

成績評価の方法
出席時数2/3以上、授業態度、演習問題の理解度等を総合して評価する。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
構造設計事務所での勤務経験の後、個人で構造設計事務所を主宰

授業初日持ち物 筆記用具、ノート、関数電卓	学校で準備する教材など 演習問題のコピー、カッターマット(模型作成用)
--------------------------	--

配付資料 演習問題のプリント

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	構造計画-1	講義・演習	倉島和弥・佐藤一枝	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	住宅の構造図を理解し描けるようになる。
----------------------	---------------------

授業の内容	木造住宅の在来工法の構造について軸組模型を作ることにより理解する。また、木造住宅の構造計算をである壁量計算について取得する。本年度のどの建築基準法改正に伴い壁量計算書の添付が義務づけられたため社会での即戦力となる授業である。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	10/8・木造住宅の軸組在来工法概説 (担当 専任講師)
2	10/16・木造住宅の軸組模型の制作-1 (担当 専任講師)
3	10/22・木造住宅の軸組模型の制作-2 (担当 専任講師)
4	11/5・木造住宅の軸組模型の制作-3 (担当 専任講師)
5	11/12・木造住宅の軸組模型の制作-4 (担当 専任講師)
6	11/19・木造住宅の軸組模型の制作-5 (担当 専任講師)
7	11/26・木造住宅の軸組模型の制作-6 (担当 専任講師)
8	12/3・木造住宅の軸組模型の制作-7 (担当 専任講師)
9	12/10・木造住宅の軸組模型の制作-8 (担当 専任講師)
10	12/17・木造住宅の軸組模型の制作-9 (担当 専任講師)
11	1/14・前半のまとめ
12	1/21・木造住宅の壁量計算-1(担当 佐藤一枝)
13	1/28・木造住宅の壁量計算-2(担当 佐藤一枝)
14	2/4・木造住宅の壁量計算-3(担当 佐藤一枝)
15	2/18・木造住宅の壁量計算-4(担当 佐藤一枝)

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポートによる内容評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物 ケント紙	学校で準備する教材など A2平行製図版
-----------------	------------------------

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	材料	講義・演習・実習	来馬 輝順	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築の構造材・仕上材・環境関連材等の知識を習得する。
----------------------	----------------------------

授業の内容	建築物に使われる材料(建材)の基本的な知識を学ぶ。授業の中で、より実感のある建材のイメージ力を身に着けるために、建材メーカーの見学や、構造材、機能材、仕上材の特性を比較検討する演習を行う。 建築の実務の中で、適切な建材の選択、提案、説明ができる建築士になる基礎を身に着けることが目標。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築の材料の知識への誘い 建築の質は材料が大切
2	仕上材の知識(1)
3	仕上材の知識(2)
4	仕上材の知識(3) 仕上材見学 レポート
5	構造材(1)
6	構造材(2)
7	構造材(3)コンクリート関連見学 レポート
8	機能材(1)
9	機能材(2)
10	機能材(3)課題または機能材関連見学 レポート
11	調整日、注目される材料見学
12	注目される材料見学
13	グループ課題「住む人にすすめたい仕上表づくり」作成(1) 仕上表について
14	グループ課題「住む人にすすめたい仕上表づくり」作成(2)
15	グループ課題「住む人にすすめたい仕上表づくり」発表・材料のまとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポートの提出、内容による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Basic Seminars In Contemporary Artに参加し、自力建設等の建築活動も行う。難波和彦主宰界工作舎にて住宅・ビルの設計監理を経て現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物	学校で準備する教材など 構造材2 モルタル実習準備(または見学等の時もあり) 箱型パン又はボウル、セメント、砂、合板5mm程度(ペースト、モルタル塗りわけ) 水供給用ペットボトル、園芸用ハndsコップ、中塗りコテ、金網、汚れ防止シート 使い切りビニルテフクロ、廃棄物(モルタル等)処理 ＜生徒＞汚れ防止エプロン等、型枠材など(ペットボトル、牛乳パック、布、網、布など)
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	施工管理-1	実験・実習・実技	木村光行	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築の現場の工事工程・施工管理を知る。
----------------------	---------------------

授業の内容	木造住宅の建設の実際を建築現場を見学しながら学びます。閾値調査から基礎工事、木造の骨組み工事、防水工事や外壁工事、室内造作工事、仕上げ工事、すべての工事過程の現場見学を行います。建設現場で必要な知識などを体験で学ぶ授業となります。なお、授業の性格上、見学可能な現場の状況によって授業が前後したり、土曜日に補講のかたちになる可能性があります。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	10/10 敷地確認、地盤調査
2	10/17 基礎配筋
3	10/31 コンクリート打設
4	11/7 プレカット工場
5	11/14 木造軸組工事
6	11/21 屋根防水工事
7	11/28 外壁窓工事
8	12/5 設備工事
9	12/12 下地工事、断熱工事
10	12/19 仕上げ工事-1
11	1/16 仕上げ工事-2
12	1/23 仕上げ工事-3
13	1/30 建具工事
14	2/6 家具工事
15	2/20 まとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポート提出、内容による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
木村建造株式会社代表取締役 林野庁補助事業「CLT施工」講師、国交省「CLT施工」講師 ICSカレッジオブアーツインテリアマイスター科講師

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	建築史	講義・演習	二村 悟	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築の歴史の概要を把握し、基本的な知識として著名な建築物の名前と時代や様式との関係について説明できる。 著名な建築様式の構成や名称を適切に表現できる。近現代の著名な建築家の名前と代表作を正確に回答できる。
----------------------	---

授業の内容	歴史的建造物や伝統的な資産を後世に継承していくためには、循環型社会を構築することが必要であり、そのためには保存・活用が大きな役割を果たす。歴史的建造物などが、どのようにして形作られ、今日まで維持されて来たのかを知り、今後、どのようにして継承し、発展させていくことが望ましいのかを歴史的な経緯や具体的な保存活用の実例を通して考えていく。 保存活用の理念や、実施する上で生じる様々な問題、保存活用に取り組むうえで必要とされる基礎的な知識の修得を目標とする。 建築史の研究に従事し、建築設計の実務経験と文化財の保存と活用の実務経験のある教員が、自らの研究成果やどのように文化財として保存し、活用の計画を行ったのかなどの経験をふまえた内容を提示するなどして具体的に解説する。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築史学とは何か 建築の歴史を学ぶ意味とは何か概観する。同時に、保存制度の変遷から歴史的建築物の種類を概観する。
2	日本建築史の概観(1)古代 先史時代と古代の寺院、神社、宮殿建築の造りと発展を代表的な建築物から学ぶ。
3	日本建築史の概観(2)中世 寺院、神社建築の様式、住宅建築、庶民住宅の登場と代表的な建築物について学ぶ。
4	日本建築史の概観(3)近世1 寺院、神社建築の発展と代表的な建築物について学ぶ。
5	日本建築史の概観(4)近世2 住宅の発展、民家の類型と代表的な建築物について事例を交えて学ぶ。
6	日本建築史の概観(5)近代1 擬洋風建築、近代和風建築の登場から古典様式の完成まで、代表的な建築物の事例を交えて学ぶ。
7	日本建築史の概観(6)近代2 モダニズムの登場から第二次世界大戦後の戦後復興期までの建築史を中心に、事例を交えて学ぶ。
8	日本建築史の概観(7)現代 第二次世界大戦後の復興期を経て、現代までの建築史の流れを学ぶ。
9	既存の木造建築物の保存活用の意義1 事例を交えて、活用の計画学を学ぶ
10	既存の木造建築物の保存活用の意義2 事例を交えて、活用の計画学を学ぶ
11	歴史的町並みの保存と活用 歴史的町並みにおける歴史的建築物の修景、改修デザインの建築計画について、事例を交えながら学ぶ。
12	近代建築の再利用と活用の手法 近代建築の再利用の手法と、再利用を考える上で最適な建築空間の計画について学ぶ。
13	近代化遺産の価値評価と保存・活用 近代化遺産の価値評価の方法を学び、その価値を維持しながら保存・活用する方法を学ぶ。
14	西洋建築史の概観 各時代・各様式の主な事例を取り上げて解説し、その特徴を学ぶ。
15	前期講義のまとめ 保存活用の展望、歴史的建築物と関連したものの総合的な利活用の方策などについても触れる。

成績評価の方法
出席時数2/3以上及び授業への貢献度を成績評価に加味する。
貢献度とは、授業に参加し、成績評価に関係する授業内で行う課題に取り組み、授業内に提出することである。 加えて、周囲の学生に迷惑をかけないようにすること、聴講に支障がある行為をしないことである。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
建築史の研究に従事し、建築設計の実務経験と文化財の保存と活用を専門研究委員会等で実務に従事。 大学、短期大学、専門学校の客員准教授、非常勤講師を歴任。

授業初日持ち物 ノート、筆記用具、色鉛筆	学校で準備する教材など
-------------------------	-------------

配付資料 各授業で講義する内容を配布する。

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	デザイン史	講義・演習	深川 雅文	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	デザイン史をバウハウスの歴史を中心に学び、建築とデザインについての知識を習得する。
----------------------	---

授業の内容	バウハウスへの旅 1919年にドイツで生まれた革新的造形芸術学校、バウハウスは、20世紀の建築とデザインのその後の方向性を指し示しました。モダンデザインの輝かしい源泉のひとつとして、設立から100年以上を経た今日も大きな影響を残しています。バウハウスとは何でしょうか？ バウハウスは学校でした。その活動を導いたのは、「すべての造形活動は建築を最終目標とする」というバウハウスの基本理念でした。その意味を、バウハウスの理念そしてここで実践されてきたさまざまな活動を辿って見ていくことで明らかにし、建築とデザインに関する知見を深めます。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	バウハウスとは何か？ その理念について
2	学校としてのバウハウス
3	バウハウスの基礎教育1
4	バウハウスの基礎教育2
5	バウハウスの基礎教育3
6	工房教育と成果 1
7	工房教育と成果 2
8	工房教育と成果 3
9	工房教育と成果 4 建築科
10	「総合」のビジョン 1 「建築」への総合
11	「総合」のビジョン2 「アートとテクノロジー」の総合
12	バウハウスの日本人学生 建築科: 水谷武彦、山脇巖
13	バウハウスの日本人女学生 織物科: 山脇道子、大野玉枝
14	バウハウスの理念の拡大 アメリカ、ドイツ、日本
15	バウハウスと現代

成績評価の方法
出席時数2/3以上、出席点(45%)+リアクションペーパー3回(15%)+期末レポート(40%)

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
大学・大学院・専門学校にて非常勤講師を歴任。インディペンデント・キュレーター、美術評論家

授業初日持ち物	学校で準備する教材など プロジェクター Wi-Fi環境 音響装置(パソコン接続用) マイク・スピーカー
---------	---

配付資料	各回の講義テキスト(PDFで配布)
------	-------------------

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	CAD演習-1 (AutoCADの基礎)	実験・実習・実技	伊藤 律子	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	AutoCADの操作・入力の基本と表現手法を学び、技術を取得する。			
授業の内容	現実を観察・実測してデジタル空間で描く実習を通してツールとしてのCADに親しむ。 基本となるAutoCADの操作・入力を練習する。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	建築、インテリアデザイン業務におけるCADの役割概要 AutoCADの特徴			
2	演習A 基本操作(1) 重要コマンドの解説			
3	演習A 基本操作(2) 線種の設定を踏まえた基本的な作図			
4	演習A 基本操作(3) 図形の描画方法			
5	演習A 基本操作(4) 図形の修正方法			
6	演習A 基本操作(5) レイヤーの概念、レイヤーの管理方法			
7	演習A 基本操作(6) 外部オブジェクトの利用			
8	演習B 図面を描く(1) RC造2階コミュニティ施設 - 平面図-1			
9	演習B 図面を描く(2) RC造2階コミュニティ施設 - 平面図-2			
10	演習B 図面を描く(3) RC造2階コミュニティ施設 - 立面図-1			
11	演習B 図面を描く(4) RC造2階コミュニティ施設 - 立面図-2			
12	演習B 図面を描く(5) RC造2階コミュニティ施設 - 断面図-1			
13	演習B 図面を描く(6) RC造3階コミュニティ施設 - 断面図-1			
14	演習B 図面を描く(7) プレゼンテーション			
15	演習B 図面を描く(8) プレゼンテーション 提出			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上 、 提出物の採点				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
大阪ガス(CG・CAD企業研修講師)/文化学園大学・短期大学(CAD非常勤講師)/町田ひろこアカデミー(CAD講師) ヒューマンリソシア(派遣社員向け研修CAD講師)/アットキヤド:CADソフト(派遣社員向け研修CAD師) 東京都市町村(職員向け企業研修CAD講師)/交通局:CADソフト(職員向け企業CAD研修)/日建学院船橋校:CADソフト(職業訓練CAD・BIM講師)他				
授業初日持ち物 記録するもの		学校で準備する教材など PC・AutoCADソフト・テキスト(書籍及び印刷物)		
配付資料				

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	CAD演習-2 (VectorWorksの2D)	実験・実習・実技	君塚 和香	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	VectorWorksの操作・入力の基本と2Dでの表現手法を学び、基本を身に付ける。			
授業の内容	製図から3D空間作成、プレゼンテーションまで幅広く使えるVectorWorksを用いて、 現実にある物や空間を実測・観察してデジタル空間内に再現し、 かつ的確に第三者に伝えるための表現手段を習得する。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	講師自己紹介 授業オリエンテーション アプリケーションソフトの操作説明 描画のしきたり レイヤーの概念 保存の概念			
2	基本操作習得 展開図を描く1 作図			
3	基本操作習得 展開図を描く2 作図			
4	基本操作習得 展開図を描く3 作図・提出・講評			
5	実測図化演習A 小物を測って描く1 作図			
6	実測図化演習A 小物を測って描く2 作図・提出・講評			
7	実測図化演習B 什器を測って描く1 作図			
8	実測図化演習B 什器を測って描く2 作図			
9	実測図化演習B 什器を測って描く3 作図・提出・講評			
10	実測図化演習C 大きな空間を測って描く1 作図			
11	実測図化演習C 大きな空間を測って描く2 作図			
12	実測図化演習C 大きな空間を測って描く3 作図			
13	実測図化演習C 大きな空間を測って描く4 作図・提出・講評			
14	立体演習 3D空間作成1 作図			
15	立体演習 3D空間作成2 作図・提出・講評 データ変換と活用について			
成績評価の方法				
出席時数の2/3以上 、 提出物の採点				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
建築設計事務所(一級)を主宰。木造を中心に住宅などを手掛ける。				
授業初日持ち物 メジャー、記録するもの ※事前にVectorWorksアプリケーションをインストールし ておくこと		学校で準備する教材など		
配付資料				

渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	絵画	実験・実習・実技	永井 俊一	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画的手法に基づいた描画方法を学び 物の形状や構造を、第三者にわかりやすく伝え共有するために必要な技術を習得する
----------------------	---

授業の内容	身の回りにある雑貨小物などの人工物、人体や草木などの自然物をモチーフとして 「観察～構造理解～描画」のサイクルを繰り返しながら描く 【観察】物の形状をよく見る 全体的に見る、詳細に見る、見たものを描く 【構造理解】物の立体構造や機能的な動きを観察する 表面から見えないところを理解して描く 【描画】鉛筆やペンなどの描画材を用いて絵画的手法で立体的な絵を描く
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	オリエンテーション(観察～構造理解～描画についての説明) 身の周りのモチーフを描く①
2	身の周りのモチーフを描く②
3	身の周りのモチーフを描く③
4	石膏デッサン①
5	石膏デッサン②
6	石膏デッサン③
7	人物クロッキー①
8	人物クロッキー②
9	静物スケッチ～着彩①
10	静物スケッチ～着彩②
11	静物スケッチ～着彩③
12	色彩表現(コラージュ)①
13	色彩表現(コラージュ)②
14	色彩表現(コラージュ)③
15	全体のまとめ

成績評価の方法
・出席時数2/3以上 ・学習態度 ・立体構造の理解度 ・画材や道具の使い方 ・提出された課題の成果物

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
(株)オリエンタルランドで商品デザイン・キャラクターアート制作に携わる 本校文化専門課程(アート)でデッサン・色彩構成・作品鑑賞など美術の基礎授業を多数受け持つ

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
鉛筆・スケッチブック	画像スライドを投影できるモニタやスクリーンなど モチーフなどの教材 課題用紙・描画材

配付資料
説明用プリント、実習に使う見本・お手本の画像は必要に応じて配布いたします

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	造形-1	実験・実習・実技	来馬輝順・倉島和弥・古川泰司	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	・建築模型作成の基礎技術取得と実物大木製屋台の製作、完成させる。
----------------------	----------------------------------

授業の内容	・建築模型作成に必要な基礎技術を実技で取得していく。 ・実物大屋台をグループで製作する。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	・建築模型-1 模型材料の理解 模型製作道具の理解
2	・建築模型-2 切り出し カッターの使い方
3	・建築模型-3 製作
4	・建築模型-4 製作
5	・建築模型-5 製作
6	・建築模型-6 製作
7	・建築模型-7 製作 完成
8	・スツールの製作-1 説明 秋岡芳夫さんのスツール
9	・スツールの製作-2 木取り
10	・スツールの製作-3 加工 のこギリで部材を切る のこギリの使い方
11	・スツールの製作-4 加工 のこギリで部材を切る→組み立て
12	・スツールの製作-5 組み立て 釘の打ち方 ビスの止め方
13	・スツールの製作-6 ヤスリがけ 塗装
14	・予備日
15	・講評

成績評価の方法
出席時数2/3以上、実習課題による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
＜来馬＞ 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰
＜倉島＞ 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
＜古川＞ 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
模型材料 スチレンボード・スチノリ・カッター・定規	

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	造形-2	実験・実習・実技	来馬輝順・倉島和弥・古川泰司	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	・実物大の小屋の製作し完成させる。
----------------------	-------------------

授業の内容	・小屋の製作の実技指導により、作業の手配や手順を知るとともに、大工道具を使い方など基礎技術を取得。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	・小屋を考える どれを作るか決める
2	・小屋の図面を書く1
3	・小屋の図面を書く2 木拾い 発注
4	・材料の確認
5	・墨付け1(ゲスト講師:木村)
6	・墨付け2
7	・墨付け3
8	・刻み1(ゲスト講師:木村)
9	・刻み2
10	・刻み3
11	・刻み4
12	・組み立て1(ゲスト講師:木村)
13	・組み立て2 仕上げ
14	・予備日 仕上げ
15	・講評

成績評価の方法
出席時数2/3以上、実習課題による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰 <倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰 <古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
コンベックス	
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	色彩/デジタルデザイン	実験・実習・実技	<色彩> 高崎葉子 <デジタルデザイン>中村 浩	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	色彩の基礎とデジタルデザイン/デジタルツールを使った建築デザインのプレゼンテーションスキルを習得する。			
授業の内容	演習を通して色彩の基本を学ぶとともに、二点透視図を描けるようになる。 デジタルデザイン/Adobe CCのデザインツールの基礎と、プレゼンテーションツールを理解する。 Adobe illustrator、Photoshopを使ったビジュアルイメージの品質と表現力アップと、Powerpoint、Arobat等のプレゼンツールの使い方を学ぶ。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	カラーシステム／色の感情効果(色の三属性、表色系、色に関する様々な効果や現象を知る)			
2	色の調和と配色の考え方(色相とトーンを利用した配色方法を知る)			
3	デザインと色彩(グラフィックデザインやプロダクトデザインなど、様々な分野における色彩を知る)			
4	街並みと色彩(色彩の公共性を知る)			
5	色彩の可能性／まとめ(カラーユニバーサルデザインなど、現代における色彩の問題や可能性を知る)			
6	Adobe グラフィックソフトの概要 Photoshopの基礎1(現在の新機能、選択ツール演習)			
7	Photoshopの基礎2(レイヤーとマスク演習)			
8	Illustrator基礎1(オブジェクトとシェイプ形成)			
9	Illustrator基礎2(文字と画像配置)			
10	CADデータとの連携Photoshop(図面着色・パース作成)			
11	CADデータとの連携Illustrator(ダイアグラム作成)			
12	CADデータの連携 応用編			
13	プレゼンテーションソフトの活用(Powerpoint Acrobat)			
14	資料作成課題			
15	まとめ			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上、課題提出物の評価				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰				
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰				
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰				
<中村> 武蔵野美術大学卒 百貨店販促宣伝部を経て、グラフィックデザイン、WEBデザインを中心に活動				
<高崎> 食品会社広報、美術系大学・専門学校教員				
授業初日持ち物 ハサミ、スティックのり		学校で準備する教材など パソコン AdobeCC(ネットワーク強化必須) A2用平行定規 『デザインの色彩』日本色研事業株式会社 人数分		
配布資料				

渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	木質空間デザイン	実験・実習・実技	浅田茂裕、三輪佳恵	1
授業の到達目標 (目標とする検定)	木質空間を考える基礎となる知識を習得する			
授業の内容	「木質空間デザイン」の授業では、木質空間の持つ効果や広がり知識を「講義演習」で得ながら、実際の空間の場に触れて考える発表する「実習実技」により、木質空間のデザイン技術を段階的に身につける組み立てとなっている。 取り組み項目：①既存の環境や空間を読み取り、その特徴をつかんで引き出す基礎的な考え方を習得する。 ②建物空間の内容や意図を正確に・的確に、分かりやすく図化・表現するスキルを習得する。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	渋谷探索			
2	渋谷の空間分析・ディスカッション			
3	教員の選んだ空間のコンセプト分析・発表			
4	渋谷の商業施設現地調査・課題確認			
5	エスキースチェックor発表			
6	エスキースチェックor発表			
7	成果発表(10人)／ ディスカッション/講評			
8	商業施設のプレゼン資料をつくる			
9	東京おもちゃ美術館に行こう。			
10	おもちゃ美術館分析・発表			
11	宿題の発表			
12	エスキースチェック			
13	エスキースチェック			
14	エスキースチェック			
15	成果発表(10人)／ ディスカッション/講評			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上、レポート提出による				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
<浅田> 埼玉大学教育学部教授、他大学非常勤講師				
<三輪> 三輪アトリエ一級建築士事務所主宰、(一社)WHAIS理事、大学兼任講師、専門学校講師				
授業初日持ち物		学校で準備する教材など		
配付資料				

渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	美術史	講義・演習	佐藤美子	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	美術を歴史的な視点でたどりながら、とかく似て非なるものとされる「建築と美術」について、その果たした社会的な役割についての知見を得る			
授業の内容	美術と建築は、親和性はあるながらも全く異なるものと現在は考えられているが、歴史的な視点からみると求められた役割は同じである。本講義では、時代を象徴する美術作品を取り上げ、その作品が制作された目的や意義について、建築(構造物)との関係性を視野にいれながら、社会的に果たした役割やその後に及ぼした影響などについて考察する。			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	はじめに 日本美術における内部空間と外部空間			
2	日本美術と建築① 平安時代			
3	日本美術と建築② 室町時代			
4	日本美術と建築③ 戦国時代			
5	西洋美術と建築① バロック			
6	西洋美術と建築② アールデコ			
7	琳派と浮世絵			
8	近代日本美術① 日本画			
9	近代日本美術② 油絵			
10	写真と建築			
11	デザインと建築			
12	現代美術と建築① 戦後			
13	現代美術と建築② 1970年以降			
14	現代美術と建築③ 2000年以降			
15	まとめ、ふりかえり			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上及び課題(レポート)提出による総合評価				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
川崎市市民ミュージアム学芸室長				
授業初日持ち物		学校で準備する教材など		
配付資料				

渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	1年次	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	デザイン論-1(デザイン史)	講義・演習	深川 雅文	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	デザインについてあらゆる領域を通して理解を深め、建築領域のデザインの基礎につなげる。
----------------------	--

授業の内容	デザインへの問い デザインとは何か? 本講義では、この問いに関して、デザインに関する歴史的事象を辿りながら重要なデザインの作品と作家やデザイン運動を紹介するとともに、それが生まれた背景となる、時代・社会・アート・テクノロジーのあり方についての洞察を深めながら迫っていきます。さらに、このプロセスを通してこれからのデザインについての展望を開きます。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	導入 デザインとは何か?
2	19世紀 近代デザインの源流 1 イギリス アーツ・アンド・クラフトから
3	19世紀 近代デザインの源流 2 印刷メディアの革新と近代グラフィックデザイン
4	19世紀 近代デザインの源流 3 万国博覧会からアール・ヌーヴォーへ
5	19世紀 近代デザインの源流 4 世紀末デザインの展開 ウィーン分離派、ユエグントシュティール
6	20世紀 モダニズム・デザインの展開1 20世紀さまざまな芸術運動と表現の革新 キュビズム、未来派、構成主義…
7	20世紀 モダニズム・デザインの展開2 ドイツ工作者連盟、アール・デコ様式
8	20世紀 モダニズム・デザインの展開3 バウハウスの創設 その歴史と理念「建築の下での諸芸術の総合」
9	20世紀 モダニズム・デザインの展開4 バウハウスの教育とデザインの拡張「アートとテクノロジー - 新たな統一」
10	20世紀 モダニズム・デザインの展開5 各国での進展 デ・ステイル、ソヴィエト・ロシア、アメリカ、
11	20世紀 モダニズム・デザインの展開6 各国での進展 ナチス・ドイツ、日本、イタリア
12	20世紀後半 1950年代～1970年代の動向1 グッドデザイン運動、北欧デザイン、スイスデザイン、日本の動き
13	20世紀後半 1950年代～1970年代の動向2 メディアの展開、素材の革新、価値観の変化
14	20世紀後半 1980年代～1990年代の動向 モダニズムを超えて 多様化、国際化、社会的意識、デジタル革命の序章
15	21世紀 これからのデザイン デジタルとアナログの新たな統一へ

成績評価の方法
出席時数2/3以上、出席点(45%)+リアクションペーパー3回(15%)+期末レポート(40%)

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
大学・大学院・専門学校にて非常勤講師を歴任。デザインに関する展覧会企画多数。インディペンデント・キュレーター、美術評論家、著述家

授業初日持ち物	学校で準備する教材など プロジェクター WiFi環境 音響装置(パソコン接続用) マイク・スピーカー
---------	--

配付資料
教材として暮沢剛巳他『デザインの歴史』(学芸出版社 2022年)を使用

(仮称)渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	製図-3(中規模非住宅)	実験・実習・実技	来馬 輝順・杉浦 充	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	3次元の建物を2次元の設計図面で表現する手法を習得する。 自己の理解と表現に留まらず、クライアントや実際に施行する協力業者の第3者に伝わる(伝えるための)図面の描き方を修得する。
----------------------	---

授業の内容	中規模の公共施設の課題について自身で設計して図面化をおこなう。 担当教員の細かなクリティークにより理解を深め卒業制作に活かす。 二級建築士の製図試験に活かす。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ガイダンス。設計課題:中規模非住宅の施設(社会情勢により毎年題材を選定する)を設計する。コンセプトの思考とエスキース。
2	エスキース及びスケッチ案をまとめる。クリティーク。周囲環境に配慮した配置計画の検討。
3	エスキース及びスケッチ案をまとめる。クリティーク。参考資料を基に躯体図をイメージして納まり上の懷を理解する。
4	エスキース及びスケッチ案をまとめる。クリティーク。平面図・立面図・断面図を並行して作図をはじめめる。
5	平面図・立面図・断面図を並行して作図を進める。
6	平面図・立面図・断面図を並行して作図を進める。
7	平面図・立面図・断面図を並行して作図を進める。
8	平面図・立面図・断面図を並行して作図を進める。矩計図と選定した部屋の展開図をの作図もはじめる。
9	作図及びクリティーク。
10	作図及びクリティーク。
11	作図及びクリティーク。
12	作図及びクリティーク。
13	作図及びクリティーク。講評開始。
14	作図及びクリティーク。講評。
15	講評。まとめ。

成績評価の方法
出席時数2/3以上。
製図課題による:各図面の基本的な理解を4段階で評価し60%以上を合格とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
来馬 輝順:Basic Seminars In Contemporary Artに参加し自力建設等の建築活動を行う。界工作舎を経て現在は設計事務所主宰。
杉浦 充:ゼネコンにて設計部と工事に在籍し現在は一級建築士事務所充総合計画主宰。

授業初日持ち物 製図用具一式トレーシングペーパー A2ケント紙	学校で準備する教材など A2用平行定規(二級建築士対応)
---------------------------------------	---------------------------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	後期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	卒業制作	実験・実習・実技	来馬輝順・倉島和弥・古川泰司	12

授業の到達目標 (目標とする検定)	2年間で学んだことから設計の卒業制作を完成させる。
----------------------	---------------------------

授業の内容	卒業制作の完成に向けて、指導を行う。
-------	--------------------

回	授業計画 及び 学習の内容
1	・ガイダンス テーマ決定
2	・エスキース-1 テーマ検討 エスキースチェック
3	・エスキース-2 エスキースチェック
4	・中間発表 コンセプト
5	・エスキース-3 エスキースチェック
6	・エスキース-4 エスキースチェック
7	・エスキース-5 エスキースチェック
8	・中間発表 プランニング
9	・製作-1
10	・製作-2
11	・製作-3
12	・製作-4
13	・製作-5
14	・製作-6 仕上げ
15	・最終発表 講評

成績評価の方法
出席時数2/3以上
最終制作物の提出・内容で評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
配付資料	

(仮称)渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和7(2025)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	建築計画-2(非住宅)	講義・演習	杉浦 充	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	各種建築物を計画する上で必要なことを修得する。製図-3課題に活かせるようにする。 建築デザインにおける空間概念を理解する。 人にとって快適な建築物及び生活空間を設計するための基本事項を修得する。
----------------------	---

授業の内容	主要な公共施設を題材に、用途の異なる建築物の成り立ち、空間構成、機能、動線、スケール、設備概論など、各種建築を計画する上で必要なことを学ぶ。 写真レポート、ディスカッションを通して各項目を理解し合う。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ガイダンス
2	集合住宅の計画
3	学校の計画
4	幼稚園・保育所の計画
5	図書館の計画
6	美術館の計画
7	劇場の計画
8	事務所の計画
9	ホテルの計画
10	病院の計画
11	商業建築の計画
12	各種建築物の計画
13	高齢者・障害者に配慮した建築計画
14	地球環境に配慮した建築計画
15	まとめ 建築計画の今後

成績評価の方法
出席時数2/3以上
製図課題による: 各図面の基本的な理解を4段階で評価し60%以上を合格とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
ゼネコンにて設計部と工事に在籍し現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物 製図用具一式 トレーシングペーパー A2ケント紙	学校で準備する教材など A2用平行定規(二級建築士対応)
--	---------------------------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	改修計画論-2	講義・演習	黒田 大志	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	(一社)リノベーション協議会主催のリノベーションコーディネーター資格取得を目指す
----------------------	--

授業の内容	<リノベーションの展望と展開について学ぶ> リノベーションを切り口に、広く社会の不動産、建築の流通の現状と仕組みと今後の中古住宅流通とリノベーション提供に必要な知識を学び、これから訪れる空き家問題、ストック社会に対応しうる多様な専門性を兼ね備えた人材を育てる授業内容とする。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容	
1	リノベーション概論1	日本の住宅ストックの歴史、市場の動向、種別と築年数、SDGsについて
2	リノベーション概論2	リノベーションの定義・指標、市場の変遷、リノベーションコーディネーターの役割、まちづくり
3	リノベーションの事例	リノベーション事例紹介、グループディスカッション
4	不動産売買の知識1	不動産業のビジョン、中古住宅取引、契約するためには、契約不適合責任
5	不動産売買の知識2	インスペクション、売買責任、現地調査、長期修繕計画
6	営業方法と契約知識1	契約までのフロー、顧客対応、費用と住宅ローン、税金
7	営業方法と契約知識2	リノベーションの費用算出、見積作成、契約とリスクマネジメント、保険の種類と活用
8	契約から引渡しまで1	プランとスケジュール、工事の確認事項、適合リノベーション検査、住宅履歴とアフターサービス
9	契約から引渡しまで2	適合リノベーション検査、重要インフラ、住宅履歴とアフターサービス
10	建築・不動産のまとめ	建築・不動産事業のまとめ、グループディスカッション
11	エネルギーと環境対応1	省エネ快適な住まいとは、日本の住宅性能、脱炭素に向けた取組、消費者のメリット
12	エネルギーと環境対応2	省エネリノベーションの勘所、リノベーション効果を数値で見る、手軽にできる断熱リノベーション
13	SDGsについて	建築・不動産業とSDGs、グループディスカッション
14	関係法規・制度	住生活基本法と計画、リノベーションに関する法規、国・自治体の補助金・税制活用、コンプライアンスとリスクマネ
15	RBC模試	リノベーションコーディネーター資格試験模試と解答レクチャー

成績評価の方法
授業への理解度を測るために小テストを実施(テスト内容はリノベーションコーディネーター資格試験や宅建試験、建築士試験よ抜粋)
社会問題への意識創出のための課題実施 出席時数2/3以上

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
講演実績: 国交省、横浜市、神奈川県設計事務所協会、リノベ協議会、HEAT20委員会、YKKAP(全国)、LIXIL他多数
掲載歴: 日経BP、日経アーキ、リノベジャーナル、スーモマーケット、建築技術、建築知識、新建ハウジング、ソトコ他

授業初日持ち物 <生徒が準備するもの> ・ スマートフォン: 意見交換アプリの利用、模試用 ・ PC: 資料閲覧、リモート対応、筆記用、模試用 ・ リノベコーディネーター試験テキスト ・ Googleアカウント(メール、資料送付用)	学校で準備する教材など ・ PPT投影用のスクリーン、プロジェクター、マイク等の機材 ・ リモート用のZOOMアカウントなど
---	--

配付資料 小テストや課題資料については、授業後にメールにて生徒に送付
--

(仮称)渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	環境工学	講義・演習	新井かおり	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	環境工学の基礎を習得する。
----------------------	---------------

授業の内容	地球環境から、都市環境、室内環境について、建築の役割を学びます。 現在私たちがおかれている地球規模の事象から日本の現状、都市や地域の課題、住環境を含めた室内環境について 建築的視点から掘り下げます。 室内環境を構成する温熱の4要素(温度・湿度・気流・周壁面の放射)から光環境、音環境、換気、通風、色彩やエネルギーについて基本を学びます。 後半は温熱計算の考え方を学んだ後、実際に計算をする実習スタイルで外皮計算の基本を学びます。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	現代における環境論／地球環境・都市環境・室内環境について建築の視点から考えること。木材利用の意義。
2	気候と室内環境／日本の気候風土と室内環境。温熱の4要素 * できれば体感出来るものを入れたい。
3	空気環境／室内の空気汚染。環境アレルギーと建築の関り。木材利用の効果。
4	光と音環境／光の性質・波長と視環境。自然光の利用。／音の性質。騒音・遮音・吸音。木材の性質。
5	換気・通風／換気の目的(自然換気・機械換気)必要換気量と換気回数。通風の効果。
6	伝熱・結露／熱の伝わり方。断熱と熱容量。結露。
7	日照・日影・日射／太陽の位置と日照率。建築物と日影。建築と日射の関係。
8	採光・照明／光の性質と採光設計。照明計画の基本知識。
9	色彩／色の基礎知識。色彩と心理。建築における色彩の役割。
10	音響／音の性質。遮音・吸音・個体伝搬音。音のトラブル。
11	エネルギー／省エネ・創エネ、建築のCO2排出量からLCA的視点の必要性。
12	建築の法規制／カーボンニュートラルと建築物省エネ法。
13	外皮計算の考え方
14	外皮計算の実習
15	環境を考えた建築を各自発表し議論する

成績評価の方法
出席時数2/3以上
最終講義での発表と発言内容により評価する

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
一社)えねこやでの出張授業(主に小・中学生) セミナーの講師等
Atelier Bio 一級建築士事務所 主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
配付資料	

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	構造計画-2	講義・演習	佐藤 一枝	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	構造計画の基本の知識を習得する。
----------------------	------------------

授業の内容	構造ブロックの捉え方や考え方を学び、実践的・具体的に演習を交えながら中規模建築の構造計画を学ぶ。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	木造架構とは(軸組材、耐力壁、水平構面、基礎の重要性説明)
2	構造ブロックの考え方(地震力が及ぼす建物の変形、地震について)
3	構造ブロックの考え方(構造単位＝四隅のブロック柱＋上部横架材＋下部横架材、L型平面の注意点)
4	構造ブロックの考え方(雁行型平面、梁上耐力壁、3次梁・4次梁の発生原因、結果床傾斜の原因と瑕疵の関係)
5	構造ブロックの考え方(梁上耐力壁の注意点、桁下げ・下屋による耐力壁の注意点)
6	構造ブロックの考え方(オーバーハング、梁断面欠損、吹き抜けの注意点) ※宿題:自分の住みたい家40坪程度を設計A
7	木造住宅モデルプランで力の流れ見える化演習(壁直下率の計算)①-1
8	木造住宅モデルプランで力の流れ見える化演習(柱直下率の計算)①-2
9	宿題:自分の住みたい家40坪程度を設計A 力の流れ見える化演習(一人でやってみよう壁・柱直下率の計算)②
10	構造ブロックの考え方(基礎の種類:べた基礎・布基礎・杭基礎・独立基礎)
11	構造ブロックの考え方(べた基礎・布基礎の注意点)
12	基礎と地盤の関係(地盤調査報告書の読み方、補強工事の種類と可能範囲)
13	壁量設計の原則と建築基準法の壁量計算数値の根拠説明
14	木造軸組工法住宅の許容応力度設計(グレー本)適用範囲、立体応力解析とは、構造計画の手法(壁量・グレー本・立体解析の比較)
15	総括

成績評価の方法
出席時数2/3以上
課題提出により評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
工務店、構造設計事務所勤務を経て、現在、株式会社ソイペディア一級建築士事務所代表取締役社長

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	構造演習	講義・演習	佐藤 一枝	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	木造建築の壁量計算が出来るようになる。
----------------------	---------------------

授業の内容	木造壁量計算の必要な知識をモデルプランによる演習を組み合わせ理解を深める。
-------	---------------------------------------

回	授業計画 及び 学習の内容
1	基準法と品確法の違い、3つの構造設計ルートとルート整理 基準法壁量計算モデルプランにて演習(地震力・風圧力に対する必要壁量の算定)①-1
2	基準法壁量計算モデルプランにて演習(地震力・風圧力に関する壁量算定)①-2、耐力壁の種類と倍率、耐力壁として可否説明
3	基準法壁量計算モデルプランにて演習(存在壁量の算定、検定)①-3
4	基準法壁量計算モデルプランにて演習(存在壁量の算定、四分割法)①-3
5	基準法壁量計算モデルプランにて演習(存在壁量の算定、四分割法、検定)①-3
6	性能表示壁量計算演習(接合部仕様、N値計算、柱の小径、準耐力壁の検討)①-4
7	性能表示壁量計算演習(存在壁量の算定、検討)①-4
8	性能表示(存在床倍率の判定)①-5
9	壁量計算モデルプランにて演習②
10	壁量計算モデルプランにて演習②
11	壁量計算モデルプランにて演習③ ホームズ君使用(検討中)
12	壁量計算モデルプランにて演習③ ホームズ君使用(検討中)
13	壁量計算モデルプランにて演習④
14	壁量計算モデルプランにて演習④
15	総括(耐力壁に対する注意点等)

成績評価の方法
出席時数2/3以上
演習課題提出により評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
工務店、構造設計事務所勤務を経て、現在、株式会社ソイペディア一級建築士事務所代表取締役社長

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	森林木材	講義・演習	古川泰司	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	建築材料のうち、木材について知見を深める。
----------------------	-----------------------

授業の内容	建築材料のうち木材について森林資源活用の視点からその特徴と生産や加工までを概観する。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	イントロダクション 15回の講義を概観し森林資源活用と木造建築の全体像を把握する
2	森林資源について-1 世界の森林資源について
3	森林資源について-2 日本の森林資源について
4	林業
5	素材生産
6	製材
7	大工と木材
8	プレカット
9	製材品と集成材
10	木材の品質と特徴
11	木造建築の可能性-1
12	木造建築の可能性-2
13	生産と流通
14	木材コーディネーター
15	まとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上
レポート提出、内容による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	施工管理-2	講義・演習	来馬 輝順	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	施工管理の基本的な知識を身に付ける。
----------------------	--------------------

授業の内容	木造以外の施工管理の概要を小演習とグループ課題で実感する。 2級建築士の問題を参考に小演習を行う。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建物の出来るまで、木造は復習 (講義+小演習:出来るまでのスケッチ)
2	積算と工程 (講義+小演習:大雑把な数量出し)
3	敷地の情報<測量図、地盤調査> (講義+小演習:敷地面積算定、三斜求積、座標求積)
4	管理と監理、現場の人のつながり (講義+小演習)
5	木造概論 (1年の復習、演習+開設)
6	RC構造論(1) (講義+小演習)
7	RC構造論(2) (講義+小演習)
8	鉄骨造概論(1) (講義+小演習)
9	鉄骨造概論(2) (講義+小演習)
10	グループ課題「今、住吉の長屋(仮)を依頼されたら」(1) 建物把握、情報集め
11	グループ課題「今、住吉の長屋(仮)を依頼されたら」(2) 工程、数量出しと利益
12	グループ課題「今、住吉の長屋(仮)を依頼されたら」(3) 現場の準備、写真
13	グループ課題「今、住吉の長屋(仮)を依頼されたら」(4) まとめ
14	グループ課題「今、住吉の長屋(仮)を依頼されたら」(5) 発表+講評
15	工事写真を撮る 授業のまとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上
課題の提出による内容の評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Basic Seminars In Contemporary Artに参加し自力建設等の建築活動を行う。難波和彦主宰界工作舎を経て現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション & アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	建築法規	講義・演習	杉浦 充	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	主に住宅建物を設計するにあたって必要な建築基準法、並びに関連法規を修得する事で実務に活かす。
----------------------	--

授業の内容	デザインの自由度を高める視点も養うために、座学のみならず、法規がどのように計画に影響するのかを、実際に建物を設計する実習により理解を深める。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築基準法の概要 用語の定義。「単体規定」と「集団規定」について。 課題の説明。
2	敷地と道路の関係。用途地域。防火・準防火・新防火地域。 建ぺい率／容積率。各種高さ制限等について。
3	ボリュームを起こしてみよう(実習)。
4	講評
5	採光(実習あり)。階段。内装制限。非常用進入口に変わる窓。天空率。
6	基礎の構造。耐力壁(実習あり)。木造耐火構造。
7	3階建て住宅の課題実習(エスキース)。
8	実習とクリティーク。
9	実習とクリティーク。
10	面積の算定方法。面積を算定してみよう(実習)。
11	実習とクリティーク。
12	講評。
13	直通階段。二方向避難。その他の法規について。
14	消防法。その他。
15	まとめ。

成績評価の方法
出席時数2/3以上
実習課題による:各図面の基本的な理解を4段階で評価し60%以上を合格とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
ゼネコンにて設計部と工事に在籍し現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物	学校で準備する教材など A2用平行定規(二級建築士対応)
---------	---------------------------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必修	デザイン論-2	講義・演習	和田浩一	2
授業の到達目標 (目標とする検定)	室内空間(インテリア)をデザインするための基礎的な知識の習得と意識づけ			
授業の内容	空間を構成する事象を理解し、そこから発生する感情や心理から行動、行為へと結びつけ、カタチへと繋げていく デザイン・設計のプロセスを理解する			
回	授業計画 及び 学習の内容			
1	ガイダンス～自己紹介、インテリアデザインとは何か、その意義、建築との関係などを説明			
2	インテリアデザインの歴史～日本と西洋のインテリアデザインの歴史を比較し、考え方の違いを理解する			
3	大きさのデザイン～自分の大きさを知り、空間の大きさを発想する			
4	色のデザイン-1～色とは？色の伝え方／色が与える心理的要素と現象、配色方法			
5	色のデザイン-2～配色方法			
6	光のデザイン～太陽光と人工光、太陽光のコントロール(ウインドウトリートメント)、人工光の考え方(心理的側面)			
7	音のデザイン・重さのデザイン～騒音、遮音、防音、音と心理との関係、ものの重量			
8	騙しのデザイン～形の成り立ち、プロポーション、パースペクティブ、装飾など			
9	家具-1／家具の種類、素材、仕上げ			
10	家具-2／家具メーカー、家具をデザインする人、名作椅子(名作家具)			
11	建具／建具の種類、素材、仕上げ			
12	行為のデザイン-1／行為から発想するインテリアプランニング(住宅)			
13	行為のデザイン-2／行為から発想するインテリアプランニング(住宅)			
14	行為のデザイン-3／行為から発想するインテリアプランニング(非住宅)			
15	行為のデザイン-4／行為から発想するインテリアプランニング(非住宅)～課題			
成績評価の方法				
出席時数2/3以上、プレゼンテーションによる評価				
教員の実務経験(企業や団体での実務経験)				
インテリアデザイン事務所主宰(実務歴32年／2025年4月)				
授業初日持ち物 書くもの(描くもの)と書かれる(描かれる)もの		学校で準備する教材など プロジェクター		
配付資料				

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和6(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	デザイン論-3	講義・演習	矢部 佳宏	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	ランドスケープデザインの歴史や事例から社会的意義・職能を学び、社会の多様な場面・文脈において、どのような手法によってアプローチすることができるかを考えることができる
----------------------	--

授業の内容	前半は、ランドスケープデザイン全般の基礎知識について学習する。ランドスケープデザインとはなにか、ランドスケープデザインの歴史を通して、ランドスケープデザイナーの役割や職能について把握する。 特に、多分野をまたぐ広域領域を扱う職能であることについて、様々な事例を通してゼネラリストでありつつスペシャリストであるランドスケープデザイナーの職業像について理解する。 後半は、ランドスケープデザインの手法とプロセスについて事例から学んだ後、授業内において具体的な敷地を想定してデザインのプロセスを体験する。 プレゼンテーションにおいては優秀な作品を選定し発表・講評を行う。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ランドスケープデザイン概論 ランドスケープデザインとはなにか？
2	ランドスケープデザイン史 ヨーロッパ
2	ランドスケープデザイン史 ヨーロッパ
3	ランドスケープデザイン史 アメリカ
4	ランドスケープデザイン史 日本(造園)
5	ランドスケープデザインのプレゼンテーション
6	現代ランドスケープデザインの手法1 環境計画・地域計画・街区設計・タウンスケープ公園・緑地・庭
7	現代ランドスケープデザインの手法2 まちづくり
8	現代ランドスケープデザインの手法3 パブリックアート
9	現代ランドスケープデザインの手法4 地方創生
10	ランドスケープデザインプロセス 1 ランドスケープアナリシス
11	ランドスケープデザインプロセス 2 ワークショップ、コンセプト作成
12	ランドスケープデザインプロセス 3 計画・ゾーニング・ダイアグラム
14	ランドスケープデザインプロセス 4 デザインドローイング
15	ランドスケープデザインプロセス 4 プレゼンテーション

成績評価の方法
出席時数2/3以上 レポート課題に対する記述内容の採点、授業内におけるデザイン実習課題による採点をベースに、ディスカッションや授業内での質問、発表等における視点・視座や表現のユニークさによる加点。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
上山良子ランドスケープデザイン研究所、藤頭園林上海デザインセンター(上海)等、東京・カナダ・上海を経て、西会津町にルーツ・ターン。分散型・集落滞在型古民家ホテル「NIPPONIA 檜山集落」や「西会津国際芸術村ディレクター」など、「故くて新しい未来」の暮らし方、社会の組織・仕組みや、持続可能な地域経済の生態系について探求・実践している。ランドスケープデザインその他、グラフィックデザイン、webデザイン、アートプロジェクトの企画やディレクション等、クリエイティブ業務全般に従事。近年では、ふるさと財団地域再生マネージャーなど、他地域での地域再生にも取り組む。

授業初日持ち物 PC、タブレット、メモ、ノート、筆記用具等 授業内容を記述できるツール	学校で準備する教材など 授業スライドを投影する機材、オンラインの音声機材
配付資料 各回ごとに印刷資料を準備する	

(仮称)渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
必須	デザイン演習プラン演習	実験・実習・実技	高橋翔・来馬輝順 倉島和弥・古川泰司	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	デザインとプランニングについて基礎的な知識を取得し、技術を身に付ける。
----------------------	-------------------------------------

授業の内容	平面構成やパッケージデザインを中心としたデザイン演習と即日設計による住宅や商業空間のプランニング演習を行う。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	デザイン演習-1 平面構成
2	デザイン演習-2 平面構成
3	デザイン演習-3 立体構成
4	デザイン演習-4 立体構成
5	デザイン演習-5 立体構成
6	デザイン演習-6 パッケージデザイン
7	デザイン演習-7 パッケージデザイン
8	プラン演習-1 即日設計 住宅
9	プラン演習-2 即日設計 住宅
10	プラン演習-3 即日設計 住宅
11	プラン演習-4 即日設計 住宅
12	プラン演習-5 即日設計 商業空間
13	プラン演習-6 即日設計 商業空間
14	プラン演習-7 即日設計 商業空間
15	まとめ

成績評価の方法
出席時数2/3以上、課題提出による評価

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<高橋> 有限会社EOSplus 代表取締役 青山製図専門学校 非常勤講師(インテリア学科:照明デザイン、環境デザイン授業担当)
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰

授業初日持ち物	学校で準備する教材など
---------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション&アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	構造力学-2	講義	磯野 由佳	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	基礎力学、構造力学1の内容の理解度を深める。 単純梁、静定ラーメン、柱の断面算定を自分で行うことができる。
----------------------	--

授業の内容	基礎力学、構造力学1の内容を復習し、演習問題を解くことで理解度を深める。 実務を意識し、応力算定から断面算定までの流れを学ぶ。 演習問題は各授業ごとに行ない、理解度を確認しながら講義を進める。
-------	--

回	授業計画 及び 学習の内容
1	ガイダンス、構造物に作用する外力および骨組みについての復習
2	単純梁を設計する① 応力と反力の算定
3	単純梁を設計する② 許容応力度の考え方、各種材料の許容応力度
4	単純梁を設計する③ 長方形断面の梁の断面算定
5	単純梁を設計する④ その他の形状の梁の断面算定
6	片持ち梁を設計する① 応力と反力の算定
7	片持ち梁を設計する② 梁の断面算定
8	片持ちラーメンの応力、反力の算定
9	単純支持ラーメンの応力、反力の算定
10	3ピン構造の応力、反力の算定
11	トラス構造の応力、反力の算定① 節点法による解法
12	トラス構造の応力、反力の算定② Ritterの切断法による解法
13	柱の設計① 座屈荷重の算定
14	柱の設計② 許容応力度、応力度の考え方
15	柱の設計③ 柱の断面算定

成績評価の方法
出席時数2/3以上、授業態度、演習問題の理解度等を総合して評価する。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
構造設計事務所での勤務経験の後、個人で構造設計事務所を主宰

授業初日持ち物 筆記用具、ノート、関数電卓	学校で準備する教材など 演習問題のコピー
--------------------------	-------------------------

配付資料 演習問題のプリント

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	積算・契約	講義・演習	杉浦 充	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	契約形態について基本的な事を理解する。 見積書を読みとることができ、コストの成り立ちを理解し、設計デザインに活かす。 角部の積算の基本的な拾いができるようになり実務に対する実践力を身につける。
----------------------	--

授業の内容	建築積算に関する基本的な知識を学び、各部の数量拾いと単価の設定や労務費についての理解について、事例を基に実習を通して理解を深める。 自身が設計デザインした建物が経済的にどのように影響するかを実習を通して理解する。
-------	---

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築主の計画から企画・基本・実施設計～見積・入札・契約～工事に至るまでの流れ。
2	見積書の構成と見方。積算にあたっての決まりごと。数量と単位。
3	土工事:根切・埋戻し・地業及び土工事の数量(実習あり)
4	コンクリート:鉄筋コンクリートのコンクリートの数量(実習あり)
5	型枠:鉄筋コンクリートの型枠の数量(実習あり)
6	鉄筋:鉄筋コンクリートの鉄筋の数量(実習あり)
7	鉄骨:鉄骨の数量(実習あり)
8	木造の積算:積算の区分と順序。
9	木造の積算:区分と順序。事例。土工事・地業工事(実習)
10	木造の積算:躯体工事(実習)
11	木造の積算:仕上工事(実習)
12	木造の積算:建築法規で作成した自身の課題を実際に拾ってみる(実習)
13	木造の積算:建築法規で作成した自身の課題を実際に拾ってみる(実習)
14	木造の積算:建築法規で作成した自身の課題を実際に拾ってみる(実習)。講評。
15	講評。まとめ。

成績評価の方法
出席時数2/3以上
実習課題による:基本的な理解を4段階で評価し61%以上を合格とする。

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
ゼネコンにて設計部と工事に在籍し現在は設計事務所主宰。

授業初日持ち物	学校で準備する教材など A2用平行定規(二級建築士対応)
配付資料	

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	CAD演習-3 (AutoCADの実習)	実験・実習・実技	古川泰司・倉島和弥・来馬輝順	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	AutoCADの操作・入力の応用を学び実務レベルでのスキルを身につける。
----------------------	--------------------------------------

授業の内容	実施設計図のデジタルトレースにより、実務レベルの作図技術を学ぶ。
-------	----------------------------------

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築、インテリアデザイン業務の実施設計におけるCADの役割概要 実施設計図書の概要を知る
2	演習 デジタルトレース(1) 非住宅中規模建築 平面図
3	演習 デジタルトレース(2) 非住宅中規模建築 平面図
4	演習 デジタルトレース(3) 非住宅中規模建築 矩計図
5	演習 デジタルトレース(4) 非住宅中規模建築 矩計図
6	演習 デジタルトレース(5) 非住宅中規模建築 展開図
7	演習 デジタルトレース(5) 住宅2階建て 平面詳細図
8	演習 デジタルトレース(6) 建具表
9	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(3) 住宅2階建て 平面詳細図
10	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(4) 住宅2階建て 立体詳細図
11	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(5) 住宅2階建て 立体詳細図
12	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(6) 住宅2階建て 断面詳細図
13	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(7) 住宅2階建て 断面詳細図
14	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(8)プレゼンテーション
15	演習 デジタルトレース(5)住宅を描く(9)プレゼンテーション 提出

成績評価の方法
出席時数2/3以上 、 提出物の採点

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
<古川> 建築設計・デザイン会社勤務を経て、アトリエフルカワー級建築士事務所主宰
<倉島> 大学・専門学校・職業訓練校非常勤講師を歴任、RABBITSON1級建築士事務所主宰
<来馬> 専門学校講師、BasicSeminersInContemporaryArt、界工作舎を経て、1級建築士事務所建築工房匠屋主宰

授業初日持ち物 メジャー、記録するもの	学校で準備する教材など
------------------------	-------------

配付資料

(仮称)渋谷ファッション＆アート専門学校 建築クリエイター科

開講課程	開講学科	開講年度	学年	学期
建築専門課程	建築クリエイター科	令和8(2026)年	2年次	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	単位
選択	CAD演習-4 (VectorWorksの3D)	実験・実習・実技	君塚 和香	2

授業の到達目標 (目標とする検定)	VectorWorksの操作・入力と3Dでの表現手法の基本を学び、スキルを身に付ける。
----------------------	---

授業の内容	3DCADの入力の基本から、パース表現までを学ぶ。
-------	---------------------------

回	授業計画 及び 学習の内容
1	建築・インテリア業務におけるCADの役割、機能の概要。ソフトウェアの3D基本操作練習
2	演習A 立体物を描く(1) 小物
3	演習A 立体物を描く(2) 家具
4	演習A 立体物を描く(3) 照明
5	演習A 立体物を描く(4) 教室
6	演習A 立体物を描く(5) 教室 提出
7	演習B 住宅を描く(1) 壁オブジェクトの入力と3DCADでのプランニングの基本
8	演習B 住宅を描く(2) 窓オブジェクトの作成
9	演習B 住宅を描く(3) キッチンオブジェクトの作成
10	演習B 住宅を描く(4) 家具オブジェクトの作成
11	演習B 住宅を描く(5) テクスチャーマッピング
12	演習B 住宅を描く(6) 光源の設定
13	演習B 住宅を描く(7) パースの表現
14	演習B 住宅を描く(8) 3DCADデータを使ったプレゼンテーション表現
15	演習B 住宅を描く(9) プレゼンテーション 提出

成績評価の方法
出席時数2/3以上 、 提出物の採点

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
建築設計事務所(一級)を主宰。木造を中心に住宅などを手掛ける。

授業初日持ち物 メジャー、記録するもの	学校で準備する教材など
------------------------	-------------

配付資料
